

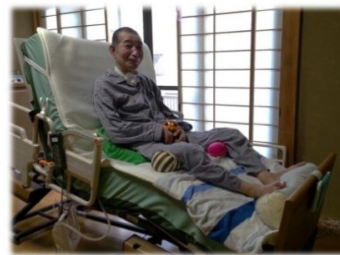
はじめに

夫が病気になり、最初は愕然としました。周囲の人からは「大変ね」ともよく言われます。でも私たち家族は夫を「介護している」のではなく、「家族と一緒に暮らしている」と感じています。そう感じているからこそ、家での生活が続けられていると思います。そんな生活を支えてくれているもののひとつに「福祉用具」があり、今回はそのいくつかをご紹介します。

基本情報

- ・性別:男性 年齢:58歳
- ・診断名:脊髄小脳変性症
- ・家族構成:妻、息子、娘と4人暮らし。Keyは妻
- ・家屋:1戸建て、本人寝室は1階
- ・介護度:要介護5
- ・経過:H17上記診断を受ける。徐々に歩行障害、嚥下障害、構音障害が進行し、H21胃瘻増設。H25声帯麻痺あり挿管、気管切開。同年に喉頭気管分離術を実施。その後レスパイトや胃瘻交換で入院を繰り返している。

PALAMOUNT BED 「楽匠Z」



「連動」のスイッチを押すだけで頭、膝、ベッドの傾斜角度を絶妙なタイミングで調整してくれ、ベッドにいながらも座っているように起こせるしくみになっている。

「楽匠Z」を導入してからの変化

H25に喉頭気管分離術のため入院したことをきっかけに、臥床状態となった。起立性低血圧が著明であり、また奥様の介助では車椅子に移乗する事が困難であった。



そこでH26.3にベッド上にながらも座っているように起こせる「楽匠Z」を導入。



☆ベッドにいながらもティルト式リクライニング車椅子に座っているような姿勢を保つ事ができ、徐々に座る体力がついてきた。
☆現在では1回/週デイサービスへ行き、離床時間を持てるようになっている。

ラックヘルスケア 「ネットィα FB」



ティルト式リクライニング車椅子であり、ティルト角度を0~20度、リクライニング角度を90~135度に調節でき、快適な座位環境を提供する。



「ネットィα FB」を導入してからの変化

1回/週のデイサービスで離床時間を持つようになってから臀部に褥瘡ができるようになった。



褥瘡予防のためクッションをジェル状のタイプからエアータ입に変更した。



エアータ입のクッションでは座面が不安定となり、ずり落ちやすくなるのだが、ティルト機能をつける事により、快適な座位環境を保持し、褥瘡を改善する事ができた。

住宅改修 「段差解消」「スロープの設置」



「段差解消」「スロープの設置」をする事により、車椅子に座ったままの状態から居室から屋外へ出られるようになっている。

まとめ

大変な事はたくさんありますが、不幸だと感じた事はありません。様々なサービスに支えられ、家族皆で幸せと思っています。